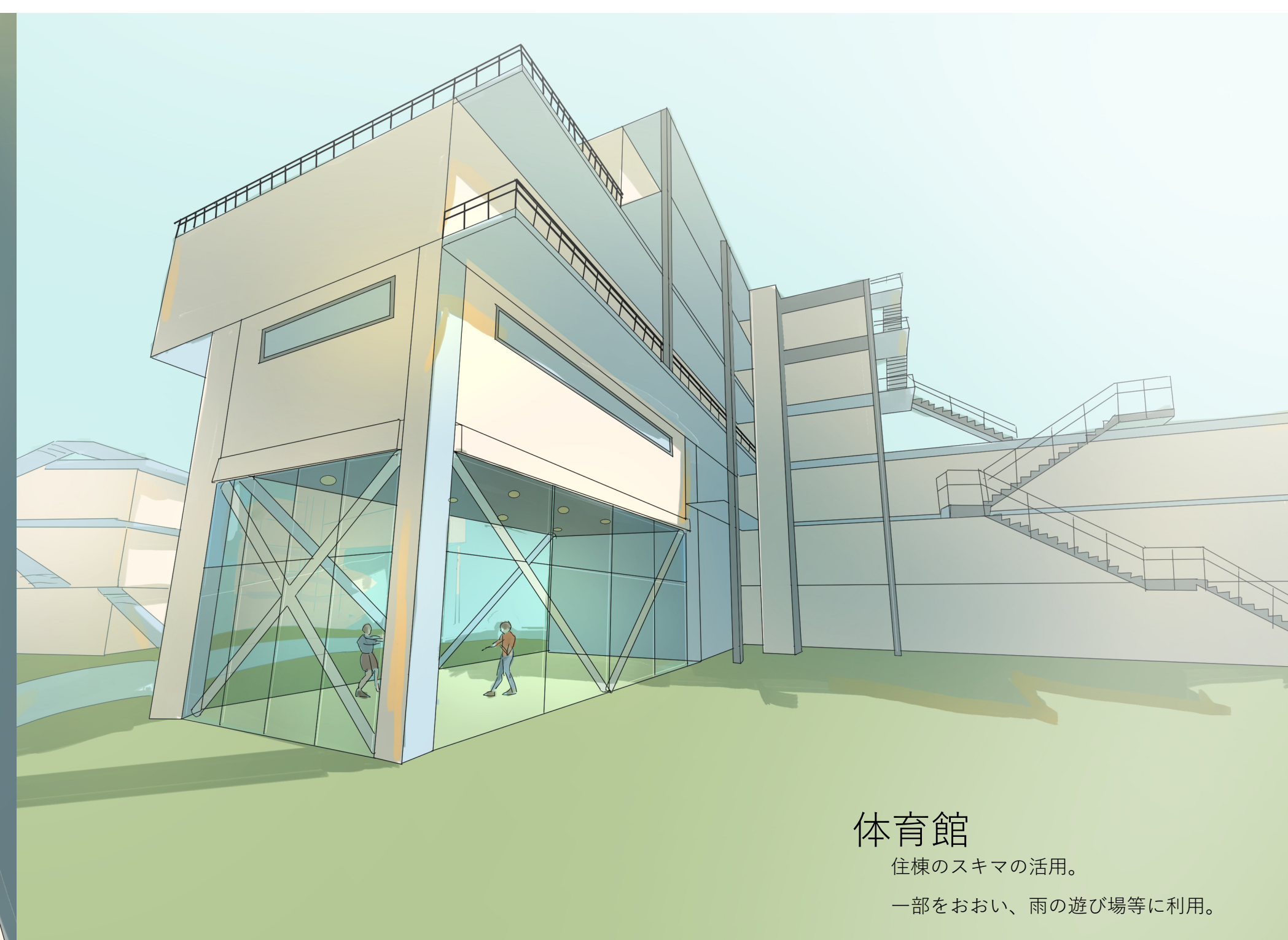
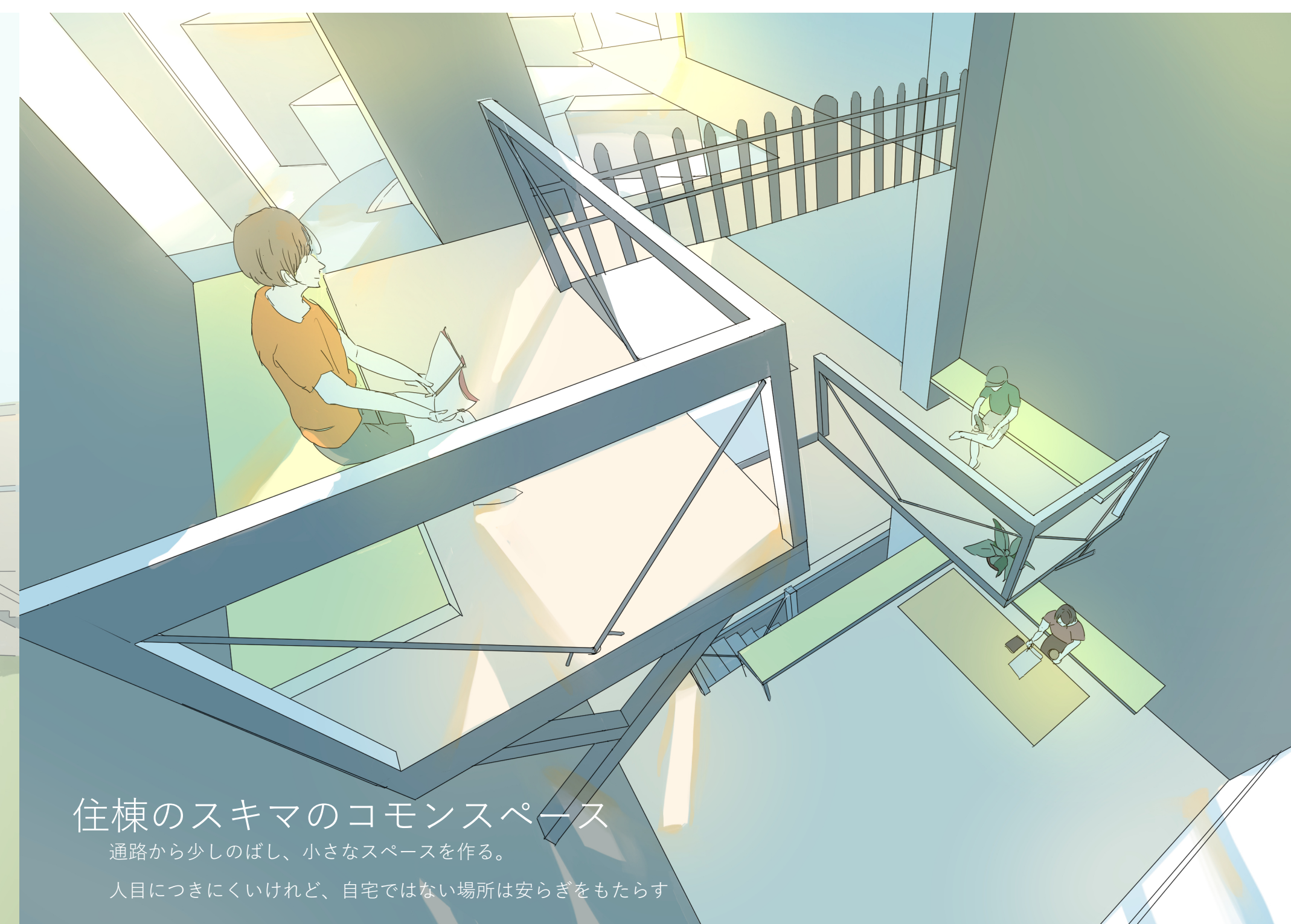


アトリエ&ギャラリー
木工や絵画など、住戸ではできないことを。
人の通る階段下はギャラリースペース



体育館
住棟のスキマの活用。
一部をおおい、雨の遊び場等に利用。



住棟のスキマのCOMMONスペース
通路から少しのばし、小さなスペースを作る。
人目につきにくいけれど、自宅ではない場所は安らぎをもたらす

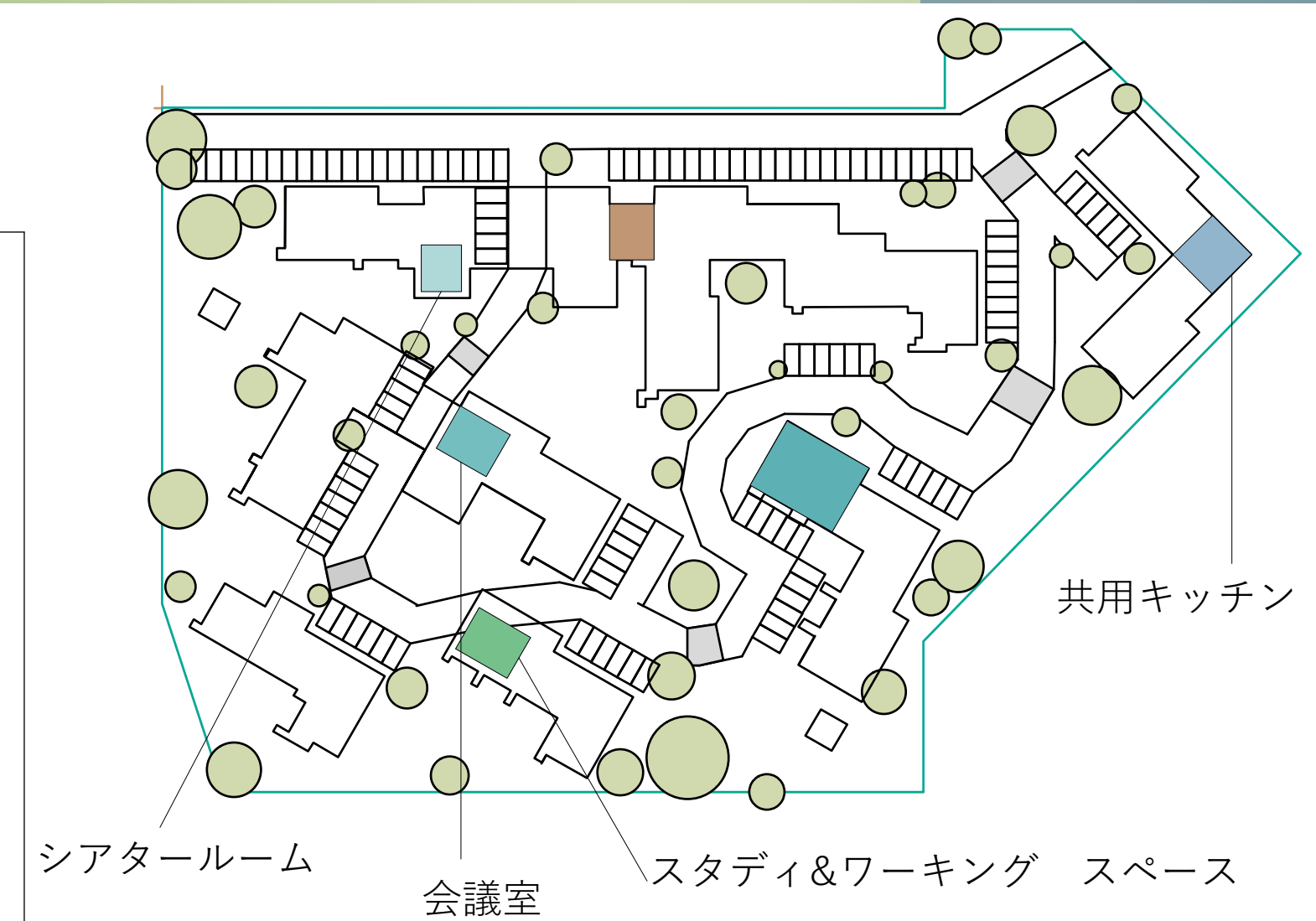
多様な つながりを考える

住宅地や集合住宅では、コミュニティ形成の様々な取り組みが行われてきましたが、効果をはかるのは難しく、簡単に答えの出るものではありません。
今回は、人が集って住む意味を考えながら、自分なりの手法を取り入れ、新たなつながりのあり方を模索しました。

分散するコモン

COMMONスペースは中心にないか。求心的ではない、まちなかみみたいな住宅地のほうが住みやすいかもしれない。
今回は「目的地」となる場所を分散配置してつなぐことで、

- ・人の目による防犯性強化
- ・住宅地一帯としての帰属意識
- ・様々な住人とのつながりを育むことを考えました。



「誰のものでもない 場所」をつくる

「家の中」と「みんなの場所」だけでは息が詰まる。もっとやわらかく、その間の場所がほしい。
誰かと、例えば家族や隣人と一緒なわけではない、自分が自分らしく過ごせる場所。でも他の人の「気配」も感じられる場所。
そんな場所が住宅地には必要なのではないのでしょうか。



！ 駐車場 と 共存する

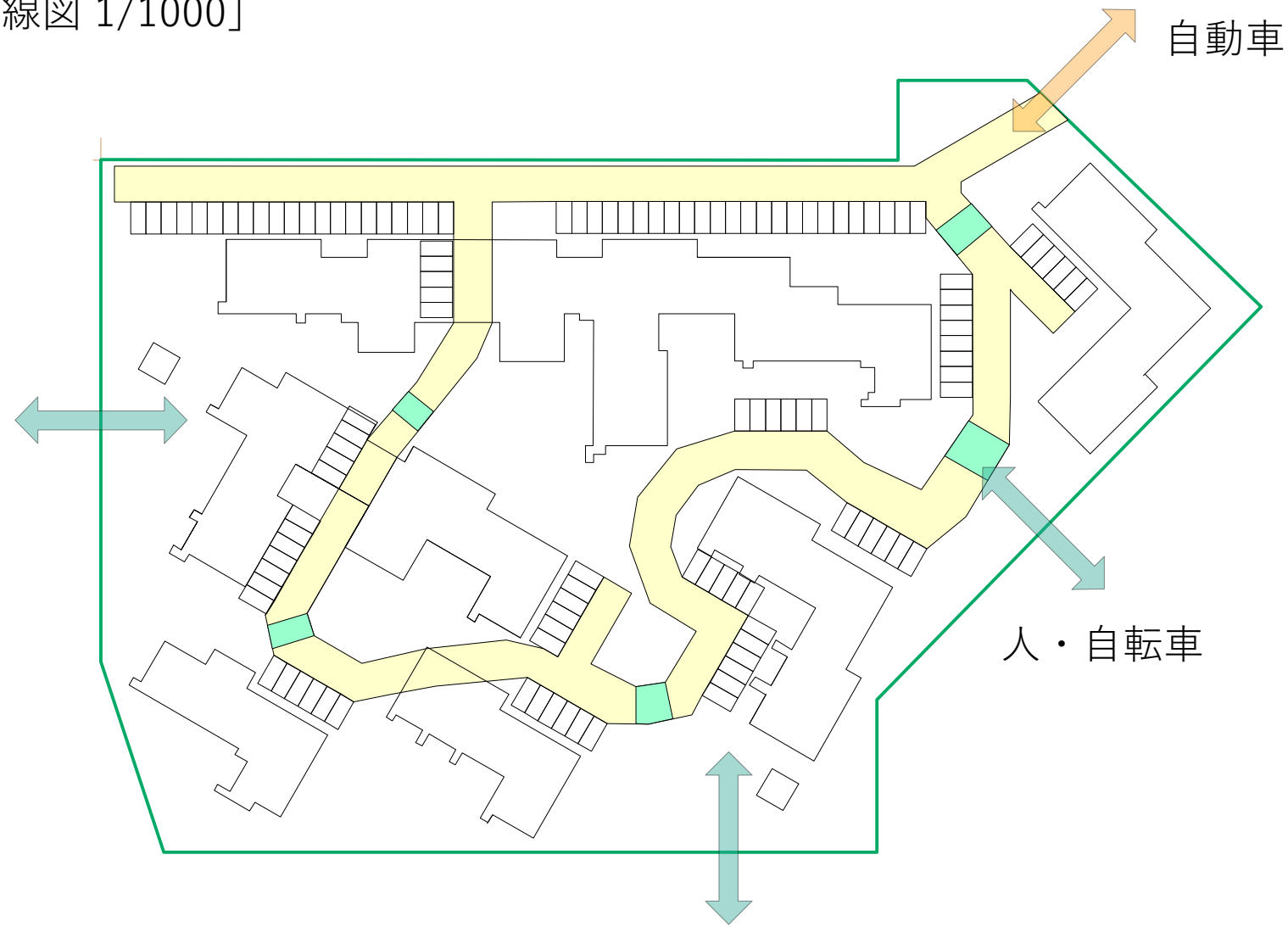
豊かな住宅地を目指すにあたって、車はずっと邪魔者でした。住戸に近い駐車場は便利だけど、車からすぐに家に入ってしまうのでコミュニティが育たないと考えられてきました。そこで地下や建物の北側に駐車場を置いたり、敷地外の駐車場の利用を推奨したりといった対応がされていきます。

でも、多くの人の生活の中心である車を隠す・離すことでしか、住環境を守れないのでしょうか？

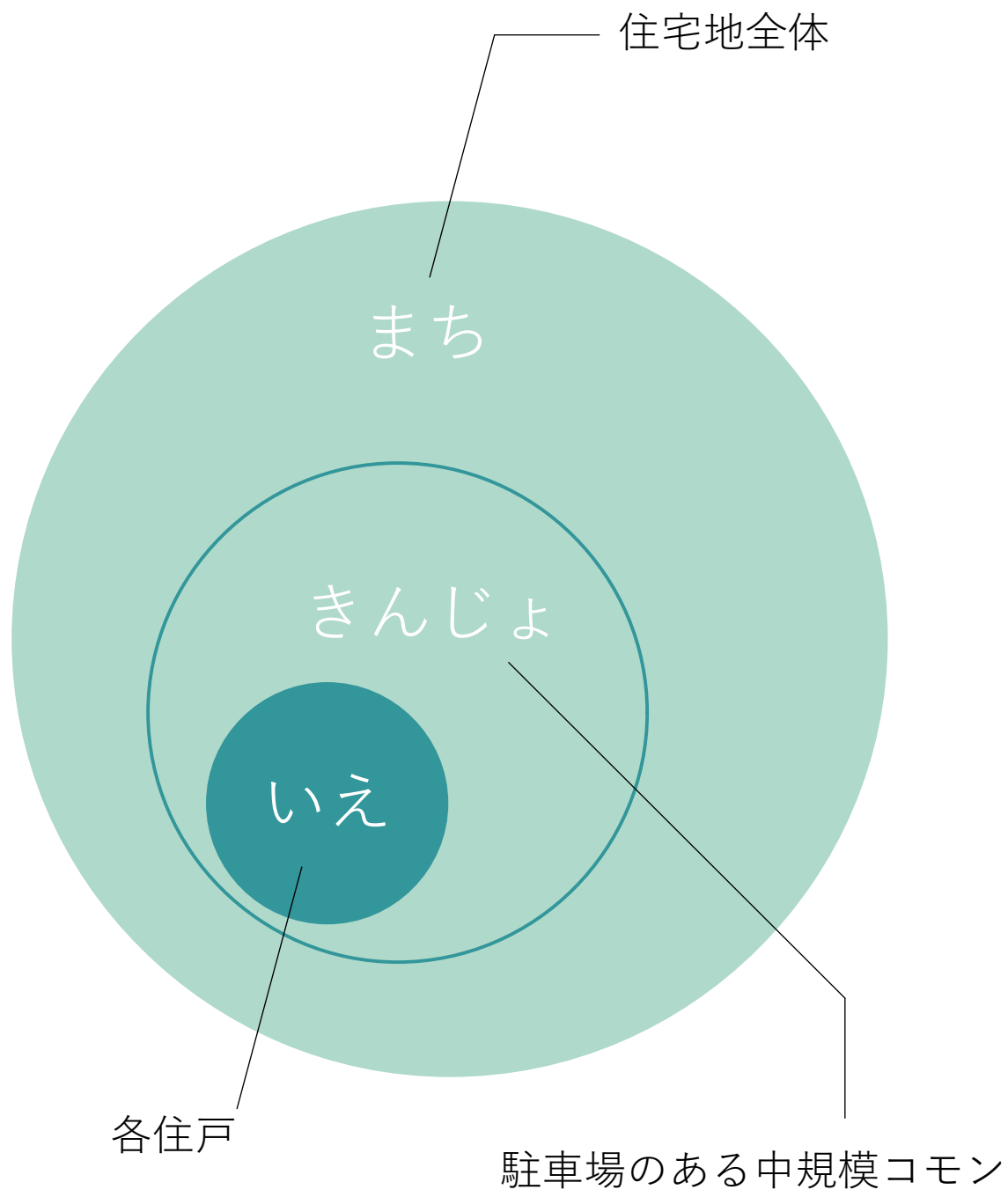
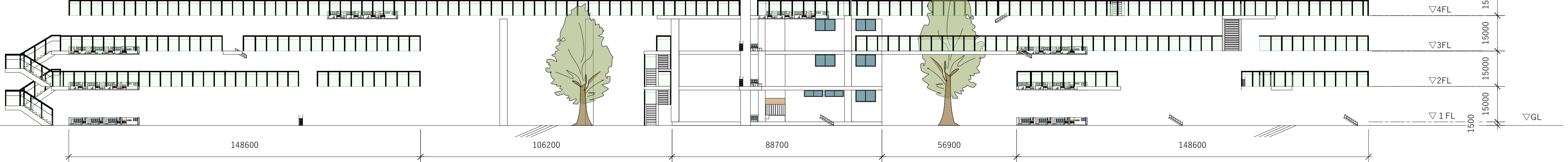
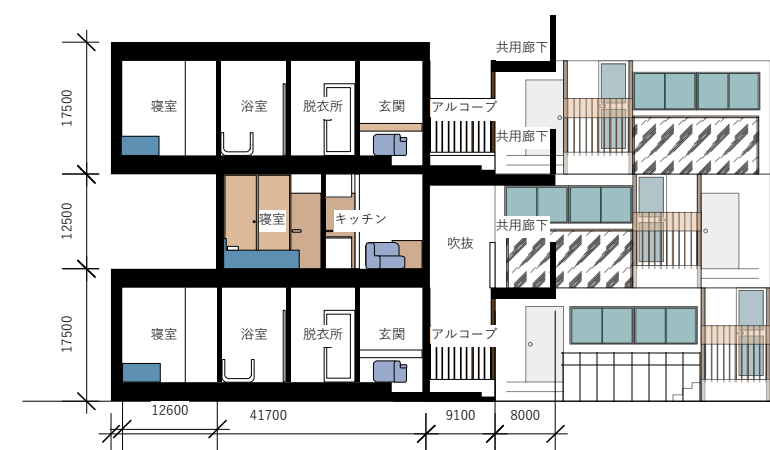
今回は、そんな駐車場を「人が集まるつながりの拠点」と考え、あえて敷地の真ん中に配置しました。

そうすると、駐車場の景観とデザインを、もっと価値のあるものにしなければなりません。南側の駐車場は、パーゴラと周辺の植栽によって緑化し、暑さを防ぎつつ有機的な空間へと転換させます。パーゴラは東屋とつながっていて、人が自然と集まる空間へと誘導されます。北側の駐車場は、ガラス屋根と渡り廊下でつながっていて、雨の日にも歩きやすく、圧迫感のないデザインです。

[動線図 1/1000]



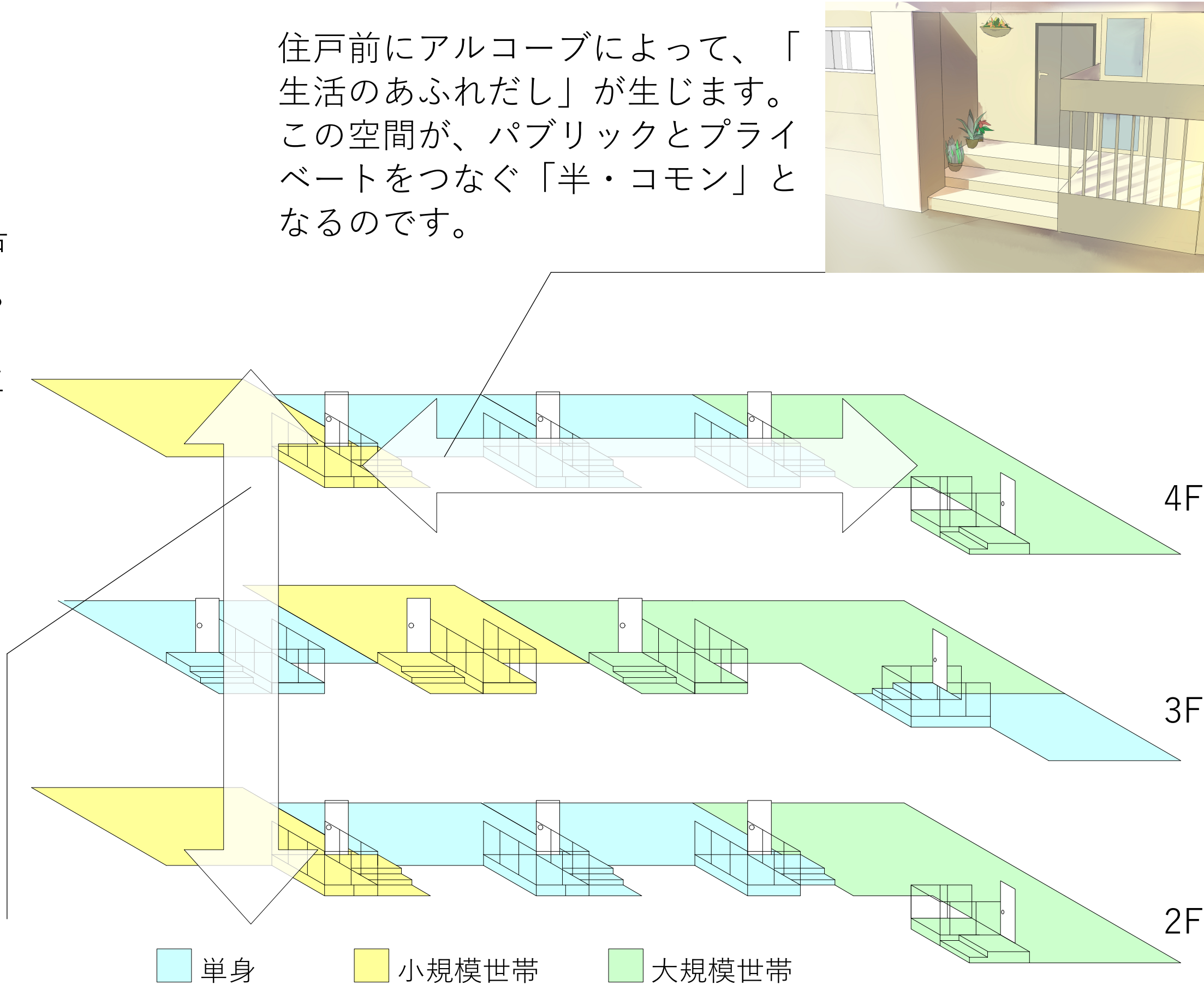
[断面図 1/200]



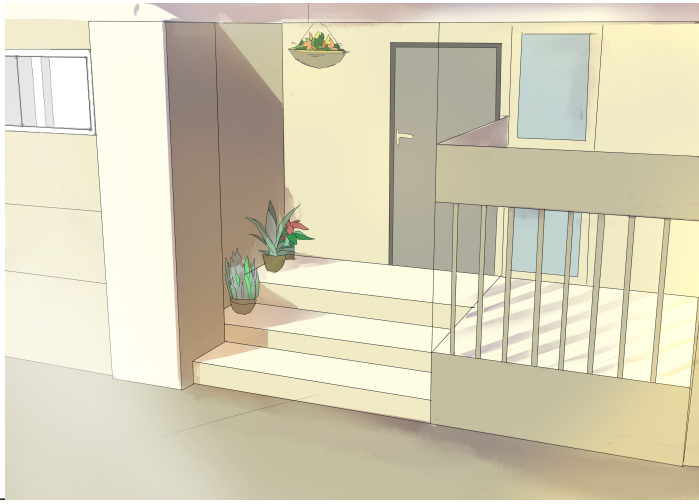
タテとヨコに開かれた住戸

住戸は右のような3階9住戸を1ユニットとしています。単純なかたちを積み上げることで、面白い複雑性が生まれます。

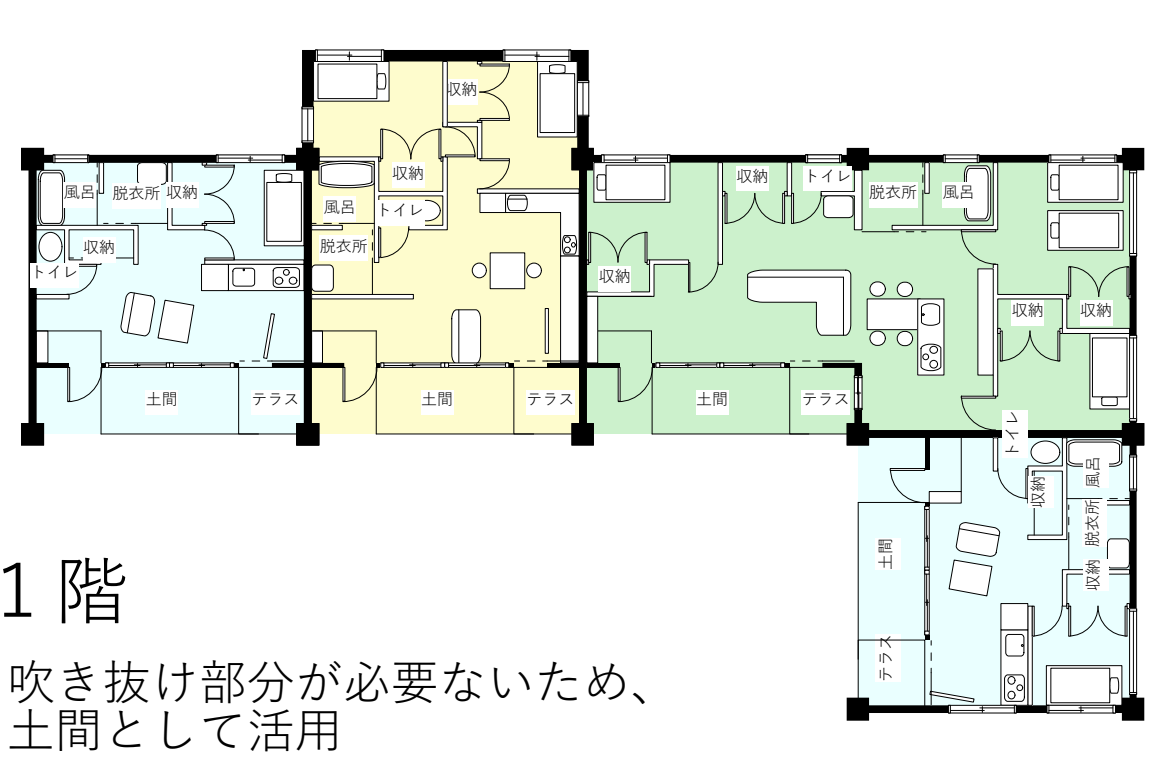
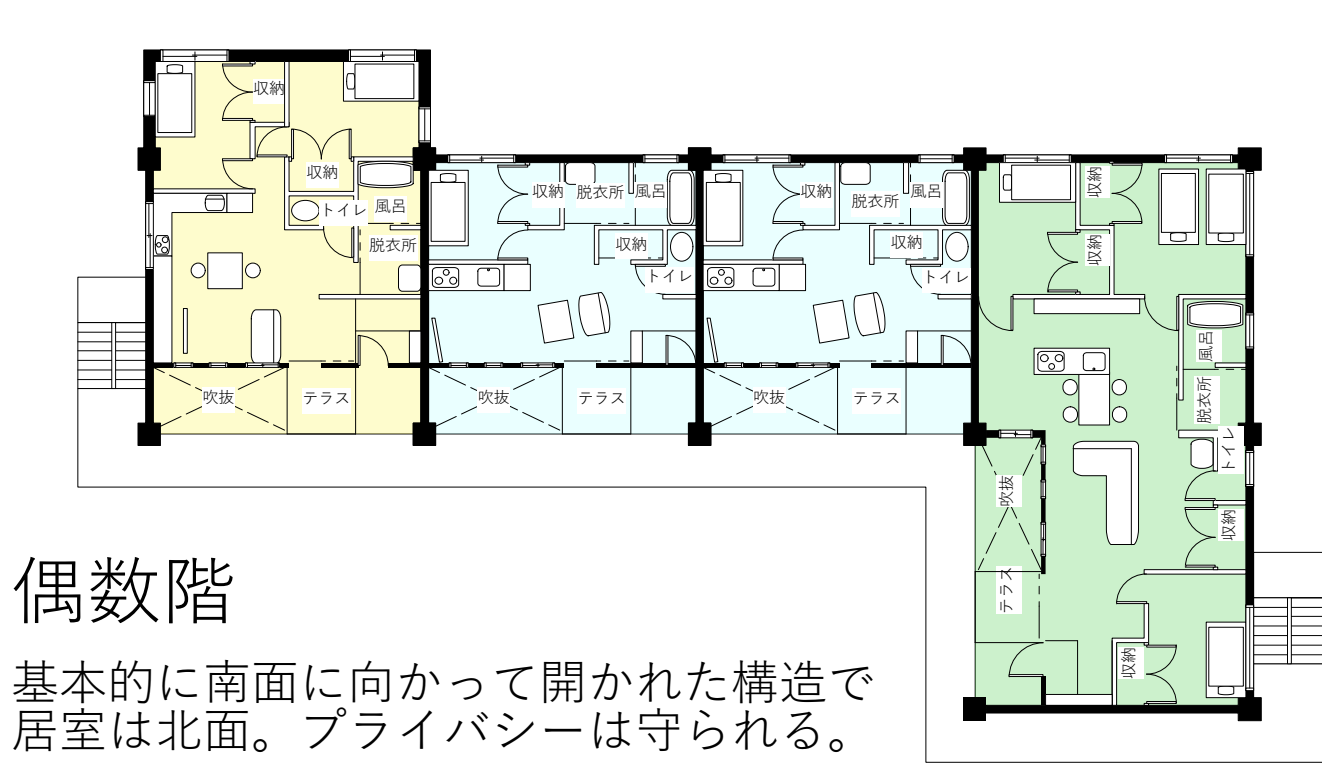
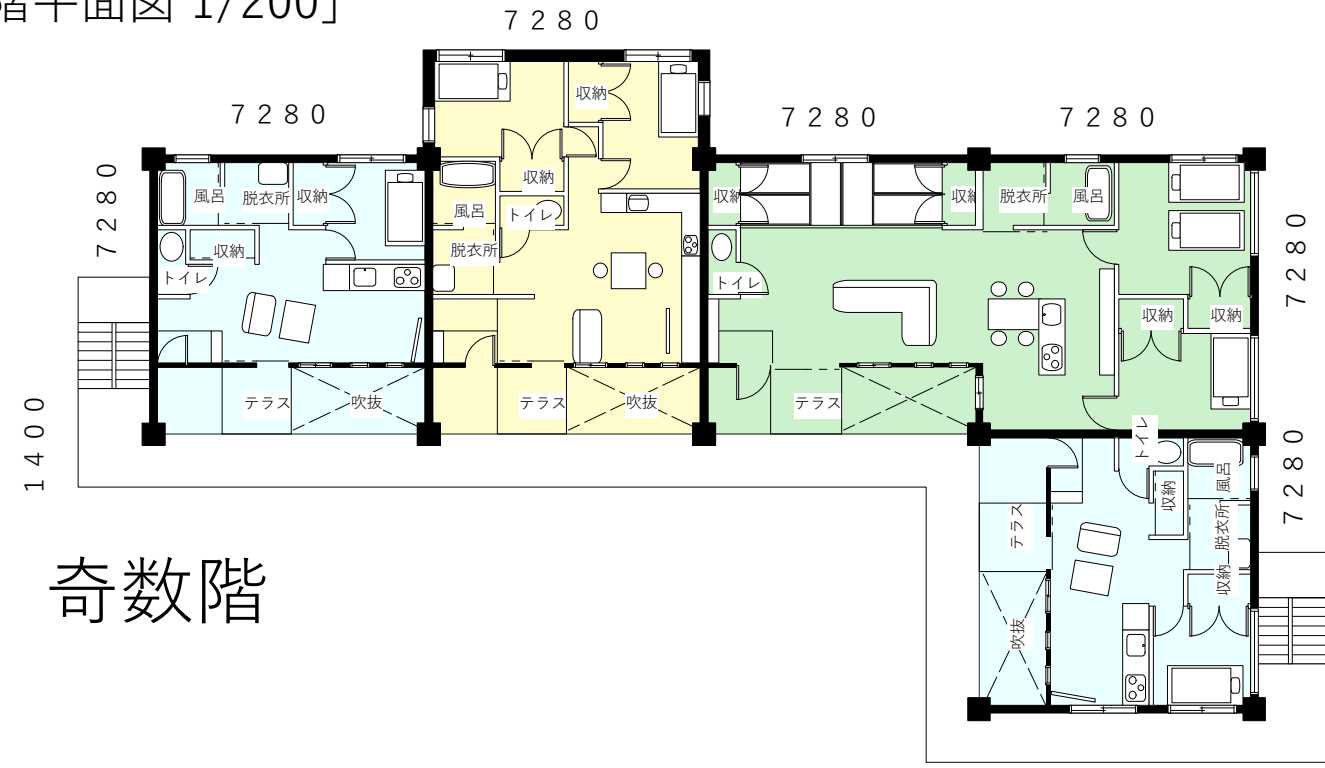
階ごとに反転するテラスと吹抜により、上下階の住戸と緩やかに接続しています。上下には、じぶんとは違う家族構成のひとが住んでいるので、彼らの生活を垣間見ること、生活に新たなリズムが生まれます。



住戸前にアルコーブによって、「生活のあふれだし」が生じます。この空間が、パブリックとプライベートをつなぐ「半・コモン」となるのです。



[基準階平面図 1/200]



[北側 8 階建て・立面図 1/200]

